

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

＞ 基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

● 人権

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

環境

基本的な考え方

省エネルギー、廃棄物削減に取り組みながら安全・安心な商品を製造し、サステナブルな社会づくりに貢献します。

森永乳業の商品は、乳をはじめ、コーヒー豆、茶葉、アロエなど、原材料の多くが自然の恵みである農産物からできています。これらの農産物を育ててきた自然に感謝するとともに、これからも環境を守りつづけていくことは、私たちが事業を継続していくために不可欠と考えています。

そのためには、気候変動への対応、食品ロスや産業廃棄物の削減への取り組み、プラスチック容器への対応が欠かせません。また、お取引先とも密にコミュニケーションをとりながら、自社だけではなく、サプライチェーン全体での取り組みとして、サステナブルな社会づくりに貢献してまいります。

現在、森永乳業の本社、研究所、直系工場および生産関係会社では、以下の環境方針に従い、ISO14001環境マネジメントシステムに基づいて活動しています。

森永乳業グループ 環境方針

＜基本理念＞

森永乳業グループは「乳で培った技術を活かし、私たちならではの商品をお届けすることで、健康で幸せな生活に貢献し豊かな社会をつくる」ことを目指す企業として、環境保護や汚染の予防など持続可能な社会づくりに貢献します。

＜基本方針＞

1. 活動、製品及びサービスなど、ライフサイクル全体を通じた環境保護と汚染の予防について目標を設定し、活動を行います。また、目標の定期的な見直しなどにより環境マネジメントシステムの継続的改善を行います。
2. 環境法令や環境に関するコミットメントの遵守を適切に管理します。
3. 事業活動が環境に与える影響だけでなく環境が当社の事業活動に与える影響を評価し対応します。

4. 環境管理重点課題として、次の事項に取り組みます。

- (1) 地球温暖化防止のため、温室効果ガスの排出抑制を推進します。
- (2) 限りある資源の有効活用のため、資源効率・エネルギー効率に配慮した事業活動を推進します。
- (3) 循環型社会形成に向けて、廃棄物の3R（発生抑制、再使用、再生利用）及び適正処理を推進します。
- (4) 製品開発を含めた環境に関連する新技術開発を推進します。
- (5) 環境に関する正しい情報を発信し、社会的信頼の向上に努めます。
- (6) 社会と地域との共生に努めます。

5. この方針は、全ての従業員に周知し、社外にも公表します。

改訂：2019年4月1日

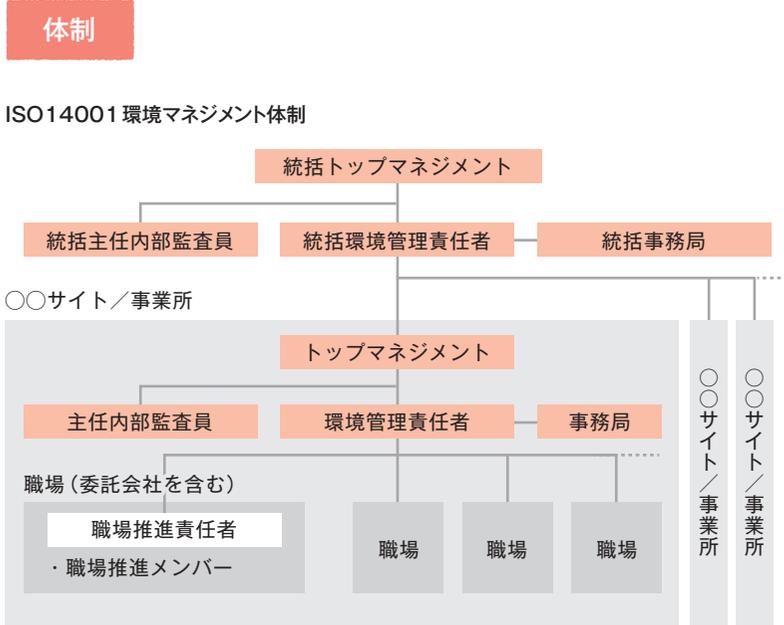
森永乳業株式会社

社長 宮原 道夫



(目次)

- サステナビリティに関する情報開示の考え方
- 編集方針
- 会社情報
- コーポレートミッション
- トップコミットメント
- サステナビリティへの取り組みのあゆみ
- 森永乳業のCSR
- 7つの重要取組課題
 - 健康・栄養
 - **環境**
 - 基本的な考え方
 - > **体制**
 - > **KPI**
 - 環境リスクの認識
 - 環境法規制の遵守
 - 環境マネジメントを推進する仕組み
 - グループ全体への環境活動の拡大
 - 気候変動
 - 資源循環
 - 水資源
 - サプライチェーンでの環境配慮
 - 環境配慮型容器包装の促進
 - 人権
 - 供給
 - 次世代育成
 - 人財育成
 - コーポレート・ガバナンス
- データ集
- 第三者保証
- GRIスタンダード対照表



KPIの進捗、確認、報告は年2回のCSR委員会(委員長:社長)にて行います。また、「重要取組課題:環境」の責任者を関係本部の本部長が担い、KPI推進責任者を関係部署の部長が担い、PDCAサイクルを回していきます。また、環境はISO14001環境マネジメントシステムに則り、統括トップマネジメントを筆頭に各サイト/事業所に至るまでマネジメント体制を確立しています。

KPI

2019年に発表した中期経営計画にて「ESGを重視した経営」を発信し、7つの重要課題のひとつである環境についてもKPIを設定しました。森永乳業では、中期経営計画が発信される以前より、環境への貢献を目的に、「環境対策中期計画」を独自に策定し、環境への配慮を進めてきました。今後は、環境対策中期計画を中期経営計画のKPIに代え、進捗を管理・公開していきます。

活動の方向性	KPI
生産部門を中心としていた環境活動を、連結対象会社全部門に拡大	ISO14001認証事業所: 2030年度までに連結対象の全事業所で取得 2021年度までにグループ全体でスコープ1、スコープ2を把握
生産における環境負荷削減	CO₂排出量原単位削減: 2021年度までに2013年度比8%削減 2030年度までに2013年度比20%削減 2050年度までに2013年度比80%削減 食品廃棄物発生量原単位削減: 2021年度までに2013年度比30%削減 産業廃棄物発生量原単位削減: 2021年度までに2013年度比33%削減 埋立廃棄物量削減: 2021年度までに年間排出量300t未満 2030年度までにゼロ 用水使用量削減: 2021年度までに年間使用量2013年度比9%削減
サプライチェーン全体の環境負荷削減	2021年度までにスコープ3の15中6カテゴリ算定
環境に配慮した容器包装の使用促進	容器包装リサイクル法対象プラスチック容器包装の重量: 2013年度比10%削減

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

▶ 環境リスクの認識

▶ 環境法規制の遵守

▶ 環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

環境リスクの認識

森永乳業グループの事業は食品を基盤としていることもあり、地球温暖化の進行による農産物原料の入手のしやすさや、お客さまの嗜好の変化、台風等の気象災害等による生産・物流等への影響、規制の強化などさまざまな面で事業活動に影響があると考えています。

2019年度、環境方針に「事業活動が環境に与える影響だけでなく環境が当社の事業活動に与える影響を評価し対応します。」という一文を加え、環境が当社事業継続に与える影響の評価とその対策を進めていくこととしました。

その第一歩として、サプライチェーン全体でのリスクと機会を洗い出し、その重要度の一次評価を行いました。今後、これらのリスクと機会についてシナリオ分析を行い、財務的影響の評価を進めていきます。

環境法規制の遵守

排水処理やボイラーなど環境汚染の原因となる可能性のある設備については、設備ごとに法令で定められた遵守すべき事項をまとめ、チェックリストにより法令遵守の確認をしています。また、これらの法令については改正情報を年1回確認するとともに、業界団体等を通じた情報をスムーズに獲得できる体制を整えています。

2018年度は環境関連法規制などに関する重大な違反はありませんでした。

環境マネジメントを推進する仕組み

環境影響評価と環境目標

森永乳業グループでは、事業活動に関連して発生する環境負荷の大きさと、地球温暖化等の環境変動による事業活動に与えるリスクと機会を評価し、環境目標となるKPIを設定しています。

これらの取り組みについては、各事業所単位で自事業所の目標に落とし込み、「実行計画表」を用いて月毎に進捗を管理しています。

環境教育

森永乳業グループでは、ISO14001の教育として認識教育と力量教育を実施しています。認識教育はISO14001認証事業所に所属する全従業員を対象にe-ラーニングを実施しており、力量教育は各事業所の環境担当者が集まる研修の他、事業所単位での講習会を実施し環境についての知識と意識の向上をはかっています。また、専門的な知識が必要な担当者の資格取得の推奨や、外部の講習の受講推進も行っています。

環境監査

森永乳業では、環境目標への取り組み、環境法令の遵守確認、環境教育の実施が適正に行われているかどうかを内部監査で確認しています。監査は、事業所内の監査員が行う内部監査と、他事業所の監査員によって行う統括内部監査を行っています。

内部監査員は独自の「内部監査員制度」を採用し、その力量によって1級から4級までの内部監査員等級を認定しており、3級以上が内部監査、1級認定者が統括内部監査の監査資格をもちます。2018年度は3級認定のためのセミナーを18回実施し115名が修了しました。また、1～4級の認定者総数は2,546名でした。

他事業所の監査員によって行う統括内部監査を、2018年度に19事業所で実施しました。

外部審査

環境マネジメントシステムは外部の審査機関による、年に1回の審査により、ISO14001適合のマルチサイト認証を受けています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

▶ グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

グループ全体への環境活動の拡大

環境マネジメントシステム

森永乳業グループでは、本社研究所をはじめ工場、グループ会社でISO14001:2015マルチサイトの認証を取得しています。今後は、製造事業所のみならず、営業事業所を含めた、全事業所でのISO14001の取得を目指してまいります。

ISO14001:2015認証取得サイト

認証登録範囲：牛乳、乳製品、アイスクリーム、飲料、その他の食品の製造および研究開発

●本社／研究情報センターサイト

本社（プラザビル）〒108-8384 東京都港区芝5-33-1

本社（目黒ビル）〒153-8657 東京都目黒区目黒4-4-22

本社（芝浦DFビル）〒108-0023 東京都港区芝浦3-13-8

研究情報センター 〒252-8583 神奈川県座間市東原5-1-83

●佐呂間工場 〒093-0504 北海道常呂郡佐呂間町字西富123

●別海工場 〒088-2572 北海道野付郡別海町西春別清川町18

●盛岡工場 〒020-0133 岩手県盛岡市青山2-3-14

●福島工場 〒960-8154 福島県福島市伏拝字清水内5

●利根工場 〒303-0043 茨城県常総市内守谷町4013-1

●東京工場 〒124-8577 東京都葛飾区奥戸1-29-1

●多摩サイト

東京多摩工場 〒207-0021 東京都東大和市立野4-515

大和工場 〒207-0021 東京都東大和市立野4-601

東日本市乳センター 〒207-0021 東京都東大和市立野4-540

装置開発センター 〒207-0021 東京都東大和市立野4-515

●松本工場 〒390-0837 長野県松本市鎌田2-1-4

●富士工場 〒418-0046 静岡県富士宮市中里東町639

●中京工場 〒483-8256 愛知県江南市中奈良町一ツ目1

●近畿工場 〒663-8242 兵庫県西宮市津門飯田町2-95

●神戸サイト

神戸工場 〒657-0854 兵庫県神戸市灘区摩耶埠頭3番

西日本市乳センター 〒657-0854 兵庫県神戸市灘区摩耶埠頭3番

●横浜森永乳業 〒252-1125 神奈川県綾瀬市吉岡東3-6-1

●北海道保証牛乳 〒047-0264 北海道小樽市桂岡町3番8号

●十勝浦幌森永乳業 〒089-5607 北海道十勝郡浦幌町字材木町1

●東北森永乳業秋田工場 〒018-3596 秋田県大館市岩瀬字上軽石野38-1

●東北森永乳業仙台工場 〒983-0001 宮城県仙台市宮城野区港1-1-9

●日本製乳 〒999-2176 山形県東置賜郡高島町大字糠野目字高野壺694-1

●シェフォーレ 〒276-0022 千葉県八千代市上高野1355-31

●エムケーチーズ 〒252-1116 神奈川県綾瀬市落台北1-1-1

●富士森永乳業 〒411-0933 静岡県駿東郡長泉町納米里18

●東洋醗酵乳 〒458-0919 愛知県名古屋市緑区桶狭間神明1518番地

●森永北陸乳業富山工場 〒930-0916 富山県富山市向新庄町8-3-45

●森永北陸乳業福井工場 〒910-0805 福井県福井市高木2丁目601

●広島森永乳業 〒731-0211 広島県広島市安佐北区三入1-19-7

●熊本森永乳業 〒861-8011 熊本県熊本市東区鹿帰瀬町431-1

●フリジポート熊本工場 〒861-1312 熊本県菊池市森北仁田畑1812番地の24

●沖縄森永乳業 〒903-0105 沖縄県中頭郡西原町字東崎4番地15

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

▶ 気候変動

資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

気候変動

CO₂ 排出量削減

森永乳業グループでは、地球温暖化対策としてCO₂削減の取り組みを進めています。2018年度の生産におけるCO₂排出量は341千トン。高効率冷凍機への更新、空調設備・排水処理ポンプ等のインバータ化など、各工場でさまざまな取り組みを行いました。北海道の工場では、重油から天然ガスへ転換するための取り組みを進めています。

また、流通においても物流協力会社とさまざまな取り組みを行っています。2015年から2018年までにトラック輸送から鉄道・船舶へ輸送手段を切り替える「モーダルシフト」を8件、配送コースの見直し・削減により、チルド日配の配送コースにて35.5コースの削減を実施、他社との共同配送を9件実施しました。物流協力会社のグリーン経営認証取得は4割を超え、低公害車の導入は7割を超えています。

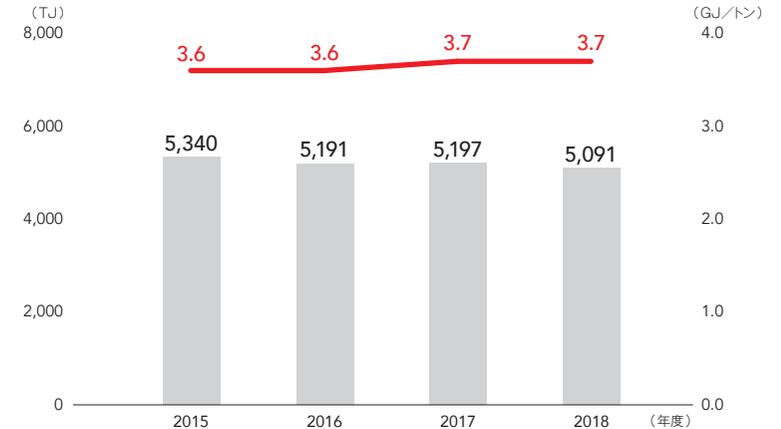
バイオマスの活用

森永乳業神戸工場では、コーヒー飲料製造時に排出されるコーヒーかすなどを、エネルギー化し工場内で使用しています。バイオマスエネルギー*は、カーボンニュートラルなエネルギーなので、CO₂排出量削減にも貢献しています。

*バイオマスエネルギー
植物などの有機物を原料としたエネルギーの総称。化石燃料に代わる新たなエネルギー源として期待されています。

エネルギー使用量と原単位

■ エネルギー使用量 ■ エネルギー原単位

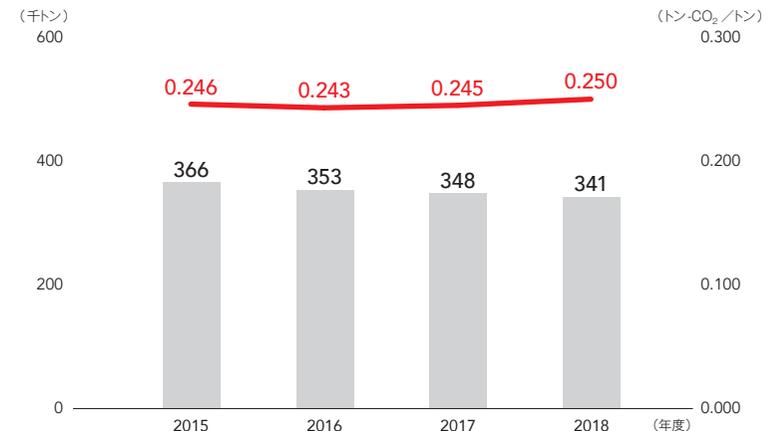


※ ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

※ 原単位とは、1年間の使用量または排出量を生産量で除したものです
原単位= 1年間の使用量・排出量 (GJ) / 1年間の生産量 (トン)

CO₂ 排出量と原単位

■ CO₂ 排出量 ■ CO₂ 排出量原単位



※ ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

※ 原単位とは、1年間の使用量または排出量を生産量で除したものです
原単位= 1年間の使用量・排出量 / 1年間の生産量 (トン)

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

> 資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

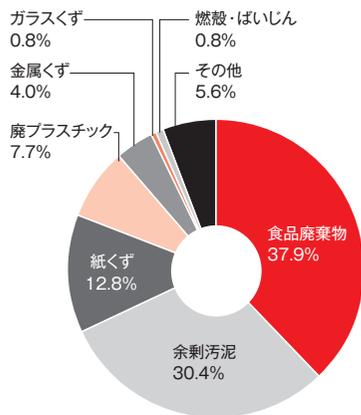
資源循環

廃棄物削減の取り組み

工場の産業廃棄物には、コーヒー・紅茶の抽出かすなどの食品廃棄物のほかに、紙くずや廃プラスチック、金属くず、排水処理場から発生する余剰汚泥などがあります。2018年度は食品廃棄物が最も多く38%、次いで余剰汚泥が30%とこの2種類だけで全体の68%を占めました。

2018年度は排水処理管理方法の変更や一部の工場で排水処理場の酸素供給方法を変更することで曝気効率を高め、年間500トンの余剰汚泥を削減しました。

2018年度 種類別廃棄物排出量の割合



※ ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

種類別廃棄物排出量*

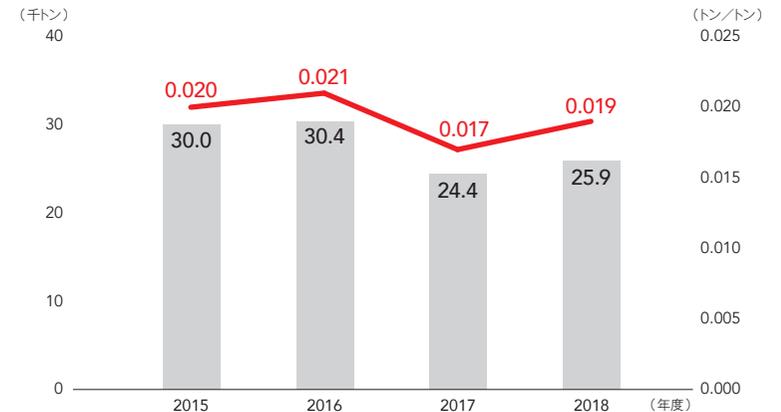
種類	排出量
合計	37,500トン
食品廃棄物	14,200トン
余剰汚泥	11,400トン
紙くず	4,800トン
廃プラスチック	2,900トン
金属くず	1,500トン
ガラスくず	300トン
燃殻・ばいじん	300トン
その他	2,100トン

※ 外部委託処理したものを集計

産業廃棄物排出量*と原単位

■ 産業廃棄物排出量 ■ 産業廃棄物排出量原単位

*マニフェストを発行する廃棄物の量



※ ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

※ 産業廃棄物排出量原単位:

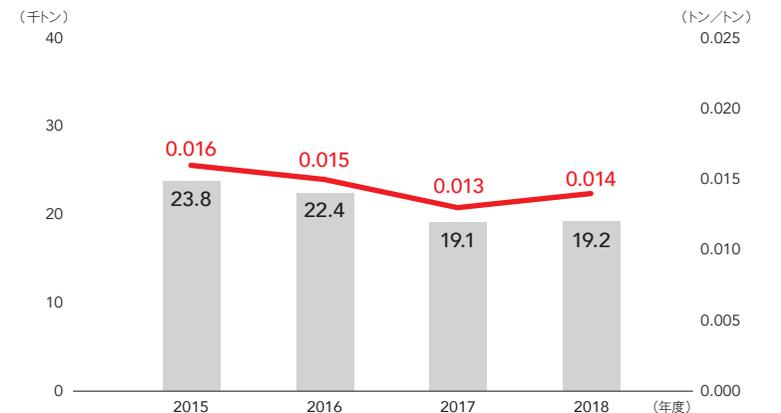
年間で排出した産業廃棄物の重量(トン)を年間生産量(トン)で除した数値

※ 2018年度の集計方法と整合させるため、過去の実績値(2015~2017)を再集計し、修正しました

食品廃棄物発生量*と原単位

■ 食品廃棄物発生量 ■ 食品廃棄物発生量原単位

*産業廃棄物、有価物、場内処理した動植物性残渣の量



※ ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

※ 食品廃棄物発生量原単位:

年間で排出した食品廃棄物の重量(トン)を年間生産量(トン)で除した数値

※ 2018年度の集計方法と整合させるため、過去の実績値(2015~2017)を再集計し、修正しました

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

▶ 資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

食品ロス削減

ロングライフ商品

森永乳業グループの商品の中には、栄養価が高いため、一般に腐敗しやすいとされるものでも賞味いただける期間が1ヵ月以上あるものがあります。これらのは多くは、無菌の状態で作製した、当社独自のロングライフ製法により実現された商品です。ロングライフ製法とは食品の殺菌と容器の殺菌を別々に行い、保存料や防腐剤を使用せず、「おいしさ」と「長持ち」を両立させることができる技術です。

ロングライフ商品は賞味できる期間が長いので、計画的な使用を考慮ことができ、廃棄率が下がることが期待されます。また、リサイクル保存*という考え方にに基づき、災害時の備蓄にも適しています。

*非常時に備えて食品を買い置きたときに、長期保存できる食料を定期的にチェックし、賞味期限が切れる前に普段の食事等で消費し、その後新しい保存食を補うことで備蓄のサイクルを回す考え方。

ロングライフ製法を用いた商品の例



森永牛乳



森永牛乳プリン



絹ごしとうふ



クリミールCZ-Hi

食品リサイクル

工場が発生する食品廃棄物の発生抑制、リサイクルを推進しています。2013年度から2018年度までの6年間で、約6,000トンの食品廃棄物を削減しました。その中で、東京都内にある当社の工場では、豆腐製造時に出るおからの100%を、飼料として再利用しています。

おからに乳酸菌を混ぜて発酵させることで風味良好なサイレージ飼料をつくることができ、それをグループ会社の森永酪農販売が酪農家に販売していま

す。東京都内にある当社の工場では、この飼料を給餌している乳牛からの生乳を使用して、乳製品をつくっています。

この取り組みは2017年度、「第5回食品産業もったいない大賞」にて審査委員会委員長賞を受賞しました。

おからの飼料化サイクルのイメージ



豆乳

大豆からおからを分離
豆腐の製造工程で、
大豆を豆乳とおからに分離します。

おから

専用設備で乳酸発酵
おからに乳酸菌を混ぜ密封した状態で
保管することで、乳酸発酵させます。

乳製品を製造
飼料を食べた牛の乳を原料として、
乳製品を製造しています。

酪農飼料として販売
でき上がった飼料は、酪農家に販売し
ます。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

> 水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

● 人権

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

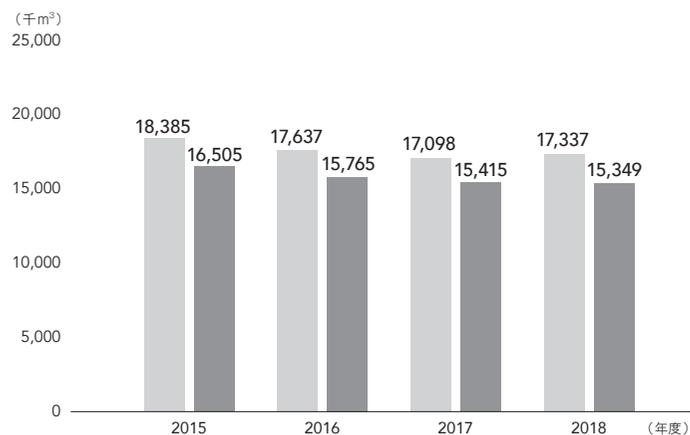
GRIスタンダード対照表

水資源

森永乳業グループの各工場は、水資源のより効率的な活用を目指して改善を積み重ねるとともに、排水処理技術の開発・改良を重ね、水質保全に取り組んでいます。水使用量削減のため、一度使用した水を再度洗浄水として使用する用水リサイクルを行っています。

用水使用量と排水量

■ 用水使用量 ■ 排水量



※ ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

排水処理の高度化

使用後の排水をきれいに自然に還すために、すべての工場に排水処理施設を備えています。排水処理場では「活性汚泥」と呼ばれる微生物が排水の汚れである栄養成分を食べて取り除き、その活性汚泥を重力で分離した処理水を放流しています。一部の工場では、活性汚泥の分離に膜を使用するMBR（膜分離活性汚泥法）を導入しています。膜分離のため、これまで以上に清澄度が高い処理水が得られています。

森永乳業東京工場は2013年度に排水処理の効率化のため、ファインバブル設備を導入しました。排水処理の前処理として、直径数十マイクロメートル以下の微細な気泡（ファインバブル）を吹き込むことで、これまで分解が困難だった油脂成分の処理を安定して行えるようになりました。これにより、生産量に大きな変化がないにもかかわらず、2018年度は余剰汚泥発生量を2012年度比で63%削減できました。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

水資源

▶ サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

● 人権

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

サプライチェーンでの環境配慮

生物多様性への取り組み

森永乳業は、2018年3月、RSPO^{※1}に加盟しました。パーム油は、生産の際に大規模な森林伐採を行うため、生物多様性の喪失など自然環境面への影響、さらには農場での労働上の人権問題が発生する可能性も指摘されていました。森永乳業は、2018年以降、ブックアンドクレーム^{※2}でのパーム油の購入を推進し、2019年度よりブックアンドクレームで100%カバーします。

コーヒー、紅茶などの飲料に関しては、現在「マウントレニア ディープエスプレッソ」など一部の商品にレインフォレスト・アライアンス認証^{※3}の原材料を使用しています。

また、紙については「MOW(モウ)」の紙スリーブや、「ピノ」「PARM(パルム)」などアイスクリーム商品の包装箱でFSC[®]認証^{※4}のものを使用しています。アイスクリーム商品では、切り替え可能な紙材について、2020年までにFSC[®]認証紙に移行することを目標としています。

※1 RSPO

Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)。パーム油の生産が、熱帯林の保全や、そこに生息する生物の多様性、森林に依存する人々の暮らしに深刻な悪影響を及ぼすことのないよう、一定の基準を満たす農場で生産されたパーム油を認証しています。

※2 ブックアンドクレーム

パーム油の生産者が、認証パーム油の生産量に基づいて認証クレジット(証書)を発行。エンドユーザーはその認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組みです。

※3 レインフォレスト・アライアンス認証

非営利団体レインフォレスト・アライアンス(Rainforest Alliance)による認証。地球環境保護と人々の持続可能な生活を確保するために、森林や生態系の保護、土壌や水資源の保全、労働環境の向上や生活保障など、厳しい基準を満たした農園にのみ与えられます。

※4 FSC[®]認証

森を守る国際的な認証制度。環境保全の視点から適切で、社会的な利益にかなない、経済的にも持続可能な森林管理のもとで生産された森林資源を使用していることを、FSC[®](Forest Stewardship Council:森林管理協議会)の基準で、第三者の認証機関が審査・認証したものにだけ付けることができます。

REPORT

▶ 詳細はP.56「環境や人権に配慮した調達」参照

物流時のCO₂排出量削減

森永乳業では、輸送によって生じる環境負荷を軽減するため、複数の企業が同一の車両に相乗りする共同配送や、トラック輸送から鉄道・船舶へ輸送手段を切り替えるモーダルシフト、同業他社との共同配送などの取り組みを行っています。2015年から2018年までに、モーダルシフトを8件、配送コースの見直し・削減により、チルド日配の配送コースで35.5コースの削減を実施、他社との共同配送を9件実施しました。

また、物流協力会社のグリーン経営認証取得は4割を超え、低公害車の導入は7割を超えており、引き続きCO₂排出量削減を進めていきます。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

➤ 環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

環境配慮型容器包装の促進

プラスチック容器への対応

森永乳業グループでは多くのプラスチック容器を使用しています。プラスチック容器による海洋などの環境汚染については重要な社会課題と捉えています。その一方でプラスチック容器は賞味期限の延長や使用時の利便性に寄与することから、環境汚染を極力抑えつつ、機能を最大限に利用する賢い使い方をすることが肝要と考えています。

その基本的な考え方として森永乳業では、環境に配慮した容器包装の設計ガイドライン「エコパッケージガイド」を制定しています。このガイドラインは、商品の企画・開発段階から3R(リデュース・リユース・リサイクル)、安全性と使いやすさに配慮した容器包装の開発・改良のもととなっています。2005年に制定したガイドを2018年に全面改定するとともに、容器包装環境確認書*により、新製品発売に際しJIS Z0130-2(包装システムの最適化)に基づいたチェックを実施することとしました。これにより、容器包装の各パーツの役割や削減する余地はないかなど、適切な環境配慮ができていくかについて確認しています。

2018年度より、社内でプラスチック容器問題への対策を検討する「CSR委員会プラスチック対策分科会」を発足させ、プラスチック容器の使用量削減やバイオマスプラスチックの採用などの検討を進めています。

社外との協体制として、プラスチック問題への取り組みをより効果的に進めるため、各種業界団体に加え経済産業省が立ち上げた「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)」や環境省の「プラスチック・スマート」フォーラムにも参加しています。

当社の環境に配慮した容器包装の改善事例については、当社のウェブサイトでご公開している他、食品産業センター、日本乳業協会、全国清涼飲料連合会などの加盟団体の事例集や農林水産省の「プラスチック資源循環アクション宣言」、環境省の「プラスチック・スマート」、経団連の「SDGsに資するプラスチック関連取組事例集」へ提供も行っています。

新しい中期経営計画においては「容器包装リサイクル法対象のプラスチック容器を2021年に2013年度比10%削減する」ことを目標として掲げており、取り組みを進めています。

※容器包装環境確認書

商品の開発に際し、容器包装の環境配慮設計に関する森永乳業独自のチェックリストのこと。「廃棄時の減容化」や「包装形態の単純化・簡素化」など11項目をチェックする。すべてにチェックがつかない場合はその理由、課題の共有を行い、次回の開発の際に活かす仕組みとして機能させています。

3Rに配慮した容器包装

森永乳業は3Rに配慮した容器包装の設計・改良を推進しています。2019年は、「ビヒダスヨーグルト」の4連パックを輸送する段ボールの形状を見直し、段ボール使用量を約8%削減しました。



お客さまのご意見を反映

「お客さま相談室」に寄せられた貴重なご意見やご指摘を活かした多数の改良事例は、当社ウェブサイトでもご紹介しています。

WEB

お客さまの声を活かしました

▶ <https://www.morinagamilk.co.jp/customer/voice/>